第3章 最終章に備えて

項目 1 終末期について①

終末期宣言書

私は精神的に健全な状態で、自らの意思で自発的に、私の終末期及び死に備えて、私の家族及び医療担当者に、以下の希望を表明し、これを宣言します。
私がこれを破棄するか撤回する意思を表明した場合、又はその文書を作成して関係者に通告しないかぎり、この宣言書を私の最終の意思として尊重してください。

1 私が終末の状態であると診断された時、及び3ヶ月以上植物状態が続いた時は

- ☐ 延命の措置(蘇生術・生命維持の装置又は継続を含む)を一切お断りします。
- ☐ 最期まで最高の医療技術で延命の措置を続けてください。

2 私の死が不可避であり、なお意識がある時は

- ☐ 肉体的、精神的苦痛を取り除く措置を出来る限り実施してください。
  そのために、死期が早まってもかまいません。
- ☐ 苦痛を除去するために生命を縮める恐れのある措置はしないでください。苦痛は忍びます。

3 私の死が不可避であると診断された時は、その病名と性質について

- ☐ 真実をありのままに告げてください。
- ☐ 家族にはありのままに告げてください。私にはあからさまに言わないでください。

4 最期の場所は

- ☐ 自宅を望みます。自宅で可能な医療と介護だけで結構です。
- ☐ 病院　☐ 施設　☐ ホスピス　で最期まで看取ってください。

5 私が脳死の状態になったと診断された時は

- ☐ 利用できる私の全ての臓器を提供します。
- ☐ 右記の臓器のみ提供を認めます。(　　)
- ☐ 私の臓器の提供は拒否します。

6 その他付け加えたい希望があれば自由に書いてください。

[　　]

以上の宣言による要望に従って頂いた場合、その行為の一切の責任は私自身にあります。

日付　　年　　月　　日　　生年月日　　年　　月　　日

住所〒

氏名　　捺印　　電話 (　　)-(　　)-(　　)

項目 1 終末期について②

終末期医療についての代理人委任状

私の意思がなくなった場合に、私の【終末期宣言書】の忠実な実行を見届け、延命や生命維持装置の装着、継続及び停止を含めて、私に与えられる措置が私の意思を尊重したものであるように、私に代わって決定する代理人として下記の者を指名します。

氏名	続柄
住所〒 電話 (　　)-(　　)-(　　)	

日付　　年　　月　　日

自署捺印　　印

生年月日　　年　　月　　日

住所〒

電話 (　　)-(　　)-(　　)

指名された代理人の承諾書

私はこの指名を承諾します。私は本人の【終末期宣言書】に添うよう、委任された事項について、本人が自分で意思決定できなくなった場合にのみ、本人に代わって医療措置を決定する権限を与えられていることを理解しています。

日付　　年　　月　　日

代理人の自署捺印　　印

注

- 代理人はあなたが最も信頼する近親者友人がよいでしょう。あなたと婚姻関係がない医師やその雇用者は代理人として指名することはできません。
- 代理人は複数を指名してもよいし、必要と考えない方は代理人を指名しなくても結構です。
- 原本は本人が所持して、コピーは代理人又は近親者に渡しておくのがよいでしょう。なおコピーは他にも作成して家族や主治医にも渡して自分の意思を理解してもらっておくこともお奨めします。
- 必要になった時は、本人又は代理人や家族から主治医に【終末期宣言書】を示してください。

以　上